

昭和50年度予算 総額 13億4,039万9,000円

道路の整備、福祉等へ 積極的に予算配分

昭和五十年一般会計予算は、地域住民の生活安定と福祉充実に配慮しつつ、国と同一の基調により歳出を極力圧縮するとともに財源の重点的配分と経費支出の効率化を図ることにより、財政の健全性を維持し、併せて経済情勢の推移に対応した弾力的な財政運営を行なうこととしました。

▲予算審議中の議会



五十年 主な事業

五十年の主な事業は、広域市町村圏道路整備計画に基づく町道（篠原線、屋敷前線、白浜十二号線等）及び一部基幹農道の改良、舗装事業、また社会福祉関係では保育料の助成措置を新規に講じたのをはじめ青少年対策、老人医療費等についても重点的計上を行ない、住民福祉の充実に配意いたしました。

その他二又、篠原、母子部落の消防施設の整備、畜産振興事業に対する助成、中小企業育成事業への融資資金の基金積立等、投資的事業への積極的な予算配分を行ないました。

一般会計

歳入歳出予算の総額は八億五千五百二十万円で、前年度に比較し五、二％、四千二百二十五万円の増加ですが、伸率では前年度の二



▲舗装が行なわれる町道屋敷前線

十七、四％、前々年度の四十一、九％を大幅に下回りました。

歳入予算総額に占める自主財源の割合は三十五％、二億九千九百五十五万円で、その主たるものは町税一億四千二百五十万、分担金、負担金一千四百五十九万、財産収入五千八百三十八万二千円、繰入金七千四百万円であり、これは前年度の三億四百四十五万三千円に比較し、一、六％の減少となつています。

一方これに対して依存財源の占める割合は六十五％、五億五千五百六十五万円で、前年度の六十二・五％、五億八百四十九万七千円に比較し九、三％、四千七百七十五万三千円の増加であります。

主たるものは地方交付税三億八千万円、国庫支出金六千三百五十八万一千円、県支出金三千六百一十九万九千円、地方債四千三百万円、地方譲与税一千三百万円、自動車取得税交付金一千五百万円でありこのうち地方交付税は前年度の当初計上額二億八千五百万円をかなり上回りました。

なお款別の歳入構成割合は別表1のとおりです。歳出では予算総額に、各性質別経費の割合は別表2のとおりですが、投資的事業に対する割合は二六、一％、二億二千三百四十六万円、人件費二六、二％、二億二千二百一十一万一千円であり、特に補助費は二四、三％、二億七百八十六万六千円と前年